



# 天目

第1号

発行者 天目山栖雲寺

発行日 平成21年5月1日

栖雲寺檀信徒の皆様、並びにご参拝の皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

本年の四月一日より当山の住職を拝命致しました青柳真元と申します。どうぞよろしくお願いいたします。未熟者ではございますが私が栖雲寺住職を務めさせていただく運びとなり、先日の四月十九日には皆様方のおかげを持ちまして無事入寺式を済ませることができました。心から感謝申し上げます。また、先代の住職青柳雅明和尚様におかれましては、今まで長年に渡り兼務住職としてお務めいただき、大変ご苦勞様でございました。

この度は入寺のご挨拶も兼ねましてこの栖雲寺たよりを発行いたしました。今後は

檀信徒の皆様や、当山まで足をお運びいただいた方々への布教の一環として、また栖雲寺の行事報告や護寺、発展の為に定期的にこのたよりの発行を予定しておりますので、ご一読いただければ幸いに存じます。

私は今現在、鎌倉建長寺の寺務所に勤務しております関係で、お寺を空けることも多々あるかと思えますが、住職としての責務は果たして行く所存でございます。何かとご不便をおかけするとは思いますが、栖雲寺の益々の発展の為、皆様方のご協力を賜りたく存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

青柳 真元

合掌

# 人天眼目

記念すべき第一号です。で、この栖雲寺たよりの呼び名であり、また当寺の山号でもある天目山について少し触れてみようと思います。そんなのは中国にある山の名だ、と言ってしまうばそれまでです。確かに中国の天目山に御修行に行かれた業海本浄和尚様が、大悟の後日本にお戻りになられて、栖雲寺を開創した際に山号にしたのですが、ではその「天目」の由来は？

右に緑字で書いたものは「にんでんがんもく」と読み「天目」の元になったとも言われております。人間界・天

言う意味です。また人天眼目は十二世紀に書かれた書物の名前でもあり、これは中国禅の各派の高僧達が提唱した偈頌（げじゆ）などを収録したものです。

さてみなさん、人間界・天界の指導者として、恥じないような行いをしていますか？一度でも天目山にお参りをされたのなら、その日から人々のよき指導者となれるよう、そして子供たちの明るい未来へのよき手本となれるよう、各々がしっかりと自覚を持って日々の生活を送りましょう。



## 緊急募集

インターネットの時代です。しかし当山住職は無能につき、このたより作成で精一杯です。栖雲寺のホームページを作成してくれる方大募集。檀家の方に限らず、このたよりを見ていただいた方でも結構です。専門の会社に委託する経済力もありませんので、どなたかパソコンの得意な方、趣味とされている方にお願ひできればと思います。年齢は問いません。たくさんの宝物にも恵まれ、また秋には見渡す限りの紅葉に囲まれる栖雲寺をネットで公開し、多くの方々に閲覧、そしてお参りいただきたいと思います。栖雲寺の為にご尽力いただける方、是非お寺または建長寺までご一報ください。連絡お待ちしております。

栖雲寺 0553-48-2797  
建長寺 0467-22-0981

住職 青柳真元